

虚飾を排して良品を追及するコンセプトは
時代が求める自転車とマッチしていた

1990s



キャストホイール&アルミフレームの折りたたみ、ミヤタ自転車・スーパーフォリオ。グッドデザイン選定商品。資料協力：自転車文化センター

追加された。この自転車はロンドンのアートミュージアムに今も展示されているという。
90年代、シティサイクルで流行ったのがキャストホイールの自転車だ。元は子ども車に多く採用されたキャストホイールだが、ポツポツカラフルさがより求められる中で、26インチなど自転車にも採用された。
ホイールは大きな要素で、ここ

のカラー化はインパクトが大きかった。街にはキャストホイールがあふれたが、実はスポークホイールより重くて、乗り心地も悪いことからやがて消えていった。
シティサイクルの栄枯盛衰も面白い。電動アシスト自転車も普及し、また大きな変化を生んでいる。今も求められるのは、シンプルさとデザイン。次なる日本発のエコックメイキングに期待したい。



Bike 無印良品・アルミATBタイプ自転車

1994年カタログより。MTBブームもあり、街乗り用のMTBルック車もあふれた。またATBと呼んでいた時代、無印良品のラインナップ化は早かった。無印ATB、今こそ欲しい。資料協力：自転車文化センター

シンプル・イズ・ビューティーの流れは、90年代以降も続いていく。そんな時代感にマッチしており、現在にあっても大きな影響力を持っているのが無印良品だろう。今や日本発祥の一大ブランドとして、世界でも展開し、注目される存在だ。
シティサイクルの自転車デザインを語るのに、やはり無印良品は外せない。無印良品が、最初に自転車を手掛けたのは82年だ。22型の十字フレームの自転車だった。シンプルで美しく、そして求めやすい価格を追及した無印良品は、自転車を本体とアクセサリに分けて考えることにした。
こうして、ガードやカゴ、ライ

トは別売り、とすることで自転車本体価格1万2000円を実現した。この価格であっても、俗に言う1万円ママチャリより、自転車自体は高品質で、スタイリッシュだった。
最もデザインコンシャスな無印良品の自転車として記憶に残るのは、自転車スタートから10年を経た92年に登場した「シャフトドライブ自転車」だろう。
チェーンがないので、汚れや衣服を巻き込む心配もない。パワーの伝導率ロスもほぼない。
シャフトドライブは、右のチェーンステアも兼ねた構造で、シンプルさが際立つ。
翌年には、折りたたみモデルも



自転車

MUJI
無印良品



Bike キャストホイールの自転車

キャストホイール装着のミニサイクル、ミヤタ自転車のシャベット。ネオンカラーが90年代を感じさせる。ガード、チェーンケースなど、別色でやたらカラフルなのがこの時代の特徴。資料協力：自転車文化センター

Bike 無印良品・折りたたみ式シャフトドライブ自転車

93年に登場した、折りたたみシャフトドライブ車。当時の価格は、58000円で機種の割には廉価だった。15.5kgとやや重いのが難点。グッドデザイン賞獲得。資料協力：自転車文化センター



今もラインナップが多い無印良品の自転車だが、十字フレームのミニサイクルがスタンダードだ。グレーやブラウンもあった。資料協力：自転車文化センター